



## 2008年アルザス日欧知的交流事業 日本研究セミナー「江戸2」

日 時：平成20年12月20日（土）～12月21日（日）  
場 所：アルザス・ヨーロッパ日本学研究所（キンツハイム、フランス）  
使用言語：日本語  
共 催：アルザス・ヨーロッパ日本学研究所  
独立行政法人国際交流基金

### ■ 開催主旨

アルザス・ヨーロッパ日本学研究所（以下CEEJA）と国際交流基金（以下JF）は、CEEJAを会場として、日欧の様々な知的交流をともに実施しています。この日本研究セミナーは、ヨーロッパにおける若手日本研究者のネットワーク形成を図り、以って日本研究者間の交流と研究の深化を促進することを目的とします。

ある特定の限られた専門分野であれば、学会などを通じて当該分野の専門家同士のコネクションはある程度機能していることが期待されます。他方で広く一般的な日本研究者のネットワークであれば、ヨーロッパ日本研究協会（EAJS）をはじめ、いくつか存在します。然るに、隣接領域の専門家間の交流は未だ十分とはいえません。しかし、当該分野の立体的な理解をすすめるには、隣接領域の知識やその専門家との意見交換がより効果的です。

そこで、ある程度の広域的なテーマを設定し、そのテーマに掛かる研究者を一同に集め、相互の発表を聞き、意見と議論を交わすことで、隣接領域を横断するネットワークを形成し、当該分野の研究の広がりや深まりを期待します。

昨年の第1回は「江戸」をテーマとし、江戸の美術、芸能、文学、社会、宗教、等々を専門とする日本研究者が集い、日本からは田中優子法政大学教授にご参加いただきました。互いの知見を交換し交流を深める中で、新しい江戸学の様々な視座が紹介され、活発な議論が交わされました。続く本年も「江戸」をテーマとして実施します。例えば、以下のような論点・視点が挙げられますが、もちろん他のテーマも歓迎します。

- ・ 江戸時代の日本の都市空間、事柄、物の、当時の世界状況下での形成過程
- ・ アジア的視点から捉えた江戸
- ・ 現在と異なる江戸時代の価値観、生活感（庶民の思想）
- ・ 江戸時代特有の重要な思考方法、創造の方法としての俳諧や「連」について（単なる文学の問題を超えて）
- ・ 現代作られ、消費されている江戸イメージ（時代劇、時代小説、映画、漫画など）
- ・ 現代の作品や思想の背景にある江戸
- ・ 江戸時代における（古代・中世の）伝統の再評価と商品化の方法（伝統の創造と活用）

■ 講師

田中優子（たなかゆうこ）氏  
法政大学社会学部・メディア社会学科教授  
専門：日本近世文化・アジア比較文化

■ 発表者

- (1) 人数：約 10 名
- (2) 発表：
  - イ 自身の専門分野について、日本語にて発表（20 分）を行う。
  - ロ 既発表のテーマも可。
  - ハ 発表に続いて、講師によるコメント、参加者による意見交換を行う。
- (3) 論文：
  - イ 本セミナー報告書作成のため、発表の基となる論文（和文または英文）を事前に提出する。

■ 発表者募集

今回のセミナーでの発表者を以下のとおり募集します。

- (1) 応募要領
  - イ 応募書類
    - (イ) 履歴書
    - (ロ) 発表レジュメ（日本語もしくは英語、A4 で 1 枚程度）
    - (ハ) 推薦状の添付も可
  - ロ 提出先：

〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-4-1  
国際交流基金 日本研究・知的交流部  
欧州・中東・アフリカ課 江戸セミナー係
  - ハ **締切：9月末日**
- (2) 審査の結果、採否につき 10 月下旬に通知
- (3) 人数：約 10 名
- (4) 条件：助教授以下の若手研究者
- (5) 待遇：
  - イ CEEJA までの往復交通費／実費支給（エコノミークラス航空券、2 等級鉄道賃、等；立替払い）
  - ロ CEEJA での宿舎・食事

■ 問い合わせ先

国際交流基金 日本研究・知的交流部  
欧州・中東・アフリカ課 担当：嶋根  
TEL：+81-3-5369-6071  
e-mail：[Tomoaki\\_Shimane@jpf.go.jp](mailto:Tomoaki_Shimane@jpf.go.jp)